



ふくち基弘

県政だよりvol.71

- 子供の未来応援・少子化対策特別委員会 委員長に選任
- 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興期について質疑
- 警察・商工労働委員会にて県内企業等を視察

<http://ameblo.jp/fukuchi-motohiro/>

連絡先 : ふくち基弘事務所
広島県広島市西区己斐上2-36-7
電話/FAX 082-271-5369



子供の未来応援・少子化対策特別委員会 委員長に選任



広島県議会6月定例会の様子

6月24日から7月2日まで9日間の日程で広島県議会6月定例会が開かれました。総額2億9499万円の補正予算や、森林環境譲与税の創設に伴って市町が実施する森林整備への支援するための基金を設置する条例の新設等の審議を行い、可決成立しました。また、広島県副知事に経済産業省出身の山田仁氏を選任することに同意しました。さらに、6つの特別委員会が設置され、ふくち基弘は子供の未来応援・少子化対策特別委員会の委員長に選任されました。ふくち基弘が所属する民主県政会からは金口巖議員(尾道市)が一般質問を行いました。(質問の概要は裏面の通り)

令和元年度6月補正予算の主な内容

○平成30年7月豪雨災害で被災した小規模事業者への支援 …被災した小規模事業者に対して、販路開拓等の事業再建に取り組む費用の一部を助成	1億1400万円
○外国人材の受入・共生対策 …外国人材の「就労環境」「生活環境」の両面から受入環境を整備するための取組	2900万円
○広島空港の拠点性強化 …路線拡充に向けて地上支援業務の体制整備に要する経費の一部を支援	2600万円
○森林環境譲与税基金への積立 …創設された森林環境譲与税を基金へ積み立て、森林経営管理の推進に活用	8500万円
○広島都市圏の魅力創造 …多様な人材を惹きつける魅力と活力ある地域環境の創出に向け、都市開発事業等の調査を実施	200万円
○サッカースタジアムの基本計画等の策定 …多機能化・複合化による広域的な集客力を持つサッカースタジアムの基本計画を策定	2800万円 etc.

6つの特別委員会を設置

○地方創生・行財政対策特別委員会

地方創生・分権改革の推進、行政経営の質的向上や安定的な税財政運営の確立について調査

○子供の未来応援・少子化対策特別委員会(委員長:ふくち基弘)

全ての子供が夢を育むことができる社会づくりや少子化対策、乳幼児期から大学・社会人までの一貫した人づくりについて調査

○地域魅力向上・健康を支える社会基盤強化対策特別委員会

地域特性や資源を活用した本県の魅力創出や価値向上、県民が安心して暮らせる地域医療介護体制について調査

○国際平和・観光振興対策特別委員会

本県を拠点とした平和な国際社会の実現、国内外からの観光誘客の促進・観光消費の増大について調査

○産業競争力強化・外国人材受入対策特別委員会

イノベーションを通じた競争力強化や海外ビジネスを促進する基盤等の整備、外国人材の受入拡大について調査

○創造的復興・県土強靱化対策特別委員会

平成30年7月豪雨災害に係る復旧・復興の着実な実施、防災・減災・県土強靱化の推進について調査

平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興等について質疑

(質問) 平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興プランに掲げた取組の現在の進捗を総括的にどのように認識しているのか、これまでの取組により得られた手応えや推進上の課題と併せて、知事に伺う。

(答弁) 主な取組の現状としては、新たな水害を招く危険度の高い破堤した12河川16か所の本復旧が今月末に完了するなど、プラン全体の進捗は概ね計画どおり進んでいる。しかし、本格的な出水期が迫る中、被災者は様々な不安を抱えており、地域支え合いセンター等を通じ、これまで以上に、被災者お一人お一人に寄り添った支援を行っていく。

(質問) この度の外国人材の受入れ拡大について、どのように受け止め、どのような課題意識をもって施策に取り組んでいくのか。

(答弁) 人材確保が困難な地域産業の発展にとって意義があるが、外国人材が社会的な孤立を招くなどの懸念があり、外国人材の円滑かつ適切な受入れを社会全体で推進していかなければならないと受け止めている。外国人材が県内企業で活躍し、地域社会の一員として働き、暮らせるよう地域の実情に応じた対策を迅速かつ総合的に講じていく。

(質問) 定数内臨時的任用教員の解消に向けて更なる本務者化を目指すとの方針を実現するためには、大胆かつ計画的な取組が必要であると考えますが、具体的にどのように取り組んでいくのか、教育長に伺う。

(答弁) 本県が実施している様々な取組をわかりやすく的確に伝えるパンフレットや動画などを作成するとともに、教職についての理解や意欲を高める広島県教師養成塾などの取組、教員の働き方改革を進めることによる教職の魅力を高める取組を推進している。教員志願者への働きかけを充実するとともに、教員免許をお持ちで現在教職に就いていない方への説明会を新たに実施するなど、一人でも多くの方に本県で教員をしたいと思っただけのような取組を行う。

警察・商工労働委員会にて県内企業等を視察



7月23日、24日の2日間、警察・商工労働委員会で県内調査を行いました。

まず、昨年9月に移転開庁した広島東警察署を訪問し、管轄する広島市東区と安芸郡府中町の犯罪情勢等について説明を受けました。移転に伴い管轄が変わったことから犯罪認知件数が大幅に減少したことや、管内に災害危険箇所が37箇所ある、といった説明がありました。

続いて、株式会社アイグランが運営する保育園、あい保育園仁保を訪問しました。保育現場の安心・安全管理などにより保育士の負担を軽減し、新人保育士・潜在保育士が定着・復職しやすい保育現場の確立をめざす取組を視察しました。乳幼児の肌着にセンサーを取り付け、睡眠中の呼吸や体の向きなどを

自動で検知、記録するITシステムを導入しており、保育業界初の取り組みとして広島県の実証プラットフォーム事業として行っているものです。

さらに、2019年福山城の初代藩主である水野勝成入封400年、2022年に福山城築城400年を迎えることから、現在福山市において記念事業が行われており、その事業の概要について説明を受けました。

また、株式会社オーザックを視察、28年前から実践している働き方改革の内容について説明を受けました。当社によれば、人間尊重の経営を行わなければならない、社員は家族であり顧客満足より社員満足を目指さなければならない、とのことでした。育児支援・有給休暇取得・残業時間短縮・完全週休二日制などの環境整備に取り組み、社員定着率は95%、新卒の採用もしており平均年齢は37歳となっています。休暇が増え残業が減る中で生産性を落とさないために何ができるか、社員が自ら常に考えて仕事をし、「働き方改革」の実現を目指しているとのことでした。

最後に、三原市で今年創業した古民家カフェ&宿 むすびを訪れ、Iターン創業の取り組みについて視察を行いました。大阪で飲食店を営んでいた夫婦が、家族で三原市に移住して県や三原市、政策金融公庫などの支援事業を活用し、古民家を改修して飲食店兼民宿を開業した実体験について説明を受けました。

